



# 2026年3月期 第3四半期決算説明会

2026年2月10日

九州旅客鉄道株式会社

- 皆様、本日はお忙しい中ご参加いただき、誠にありがとうございます。CFOの松下です。
- 本日は、2026年3月期第3四半期決算実績、2026年3月期通期業績予想および配当予想、セグメントの状況、中期経営計画の取り組み状況についてご説明いたします。
- まず、「2026年3月期第3四半期決算実績」について説明します。4ページをご覧ください。



## 目次

I	2026年3月期第3四半期決算実績	3
II	2026年3月期通期業績予想および配当予想	8
III	セグメントの状況	17
IV	中期経営計画の取り組み状況	26



# I 2026年3月期第3四半期決算実績



## 2026年3月期 第3四半期連結決算ハイライト

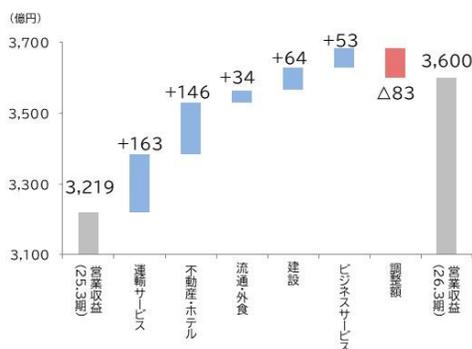
	(単位: 億円)		
	2025年3月期 3Q累計実績	2026年3月期 3Q累計実績	対前年
営業収益	3,219	3,600	381 111.8%
営業利益	496	627	130 126.3%
経常利益	499	630	131 126.2%
特別損益	4	△ 84	△ 88 -
親会社株主に帰属する 四半期純利益	373	408	34 109.2%
EBITDA <sup>(※)</sup>	770	912	141 118.4%

※EBITDA=営業利益+減価償却費(転貸を目的としたリース資産に係る減価償却費除く)以下、全て同様です。

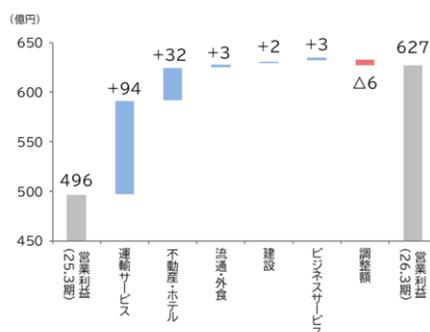
### ポイント

- 運賃・料金改定による鉄道旅客運輸収入の増加や、不動産販売収入が増加したことなどにより、営業収益は対前年増収、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は対前年増益

### セグメント別営業収益



### セグメント別営業利益



- 2026年3月期第3四半期決算について説明します。
- 営業収益は、運賃・料金改定による鉄道旅客運輸収入の増加や、分譲マンションや保有物件の売却による不動産販売収入が増加したことなどにより、対前年で381億円増の3,600億円となりました。
- 営業利益は、営業収益の増加により、対前年で130億円増の627億円。EBITDAも、対前年で141億円増加し、912億円となりました。
- また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、営業利益の増などにより、対前年で34億円増の408億円となりました。
- 次に、「2026年3月期通期業績予想および配当予想」について説明します。9ページをご覧ください。

## 2026年3月期 第3四半期連結貸借対照表

(単位:億円)

	2025年3月期 実績	2026年3月期 3Q期末	増減	主な増減要因
資産	11,405	12,149	744	
流動資産	2,141	2,614	473	仕掛品の増
固定資産	9,263	9,534	271	
鉄道事業固定資産	1,647	1,649	1	
負債	6,818	7,299	481	
流動負債	2,127	1,875	△ 251	コマーシャル・ペーパーの減
固定負債	4,691	5,424	733	社債、長期借入金の増
純資産	4,586	4,849	263	
有利子負債	4,233	4,766	533	
自己資本比率	40.0%	39.8%		

# 2026年3月期 第3四半期連結決算実績(セグメント別)

(単位:億円)

	2025年3月期 3Q累計実績	2026年3月期 3Q累計実績	対前年		主な増減要因
営業収益	3,219	3,600	381	111.8%	
運輸サービス	1,262	1,426	163	113.0%	
単体・鉄道事業	1,246	1,415	168	113.5%	運賃・料金改定による増
不動産・ホテル	944	1,090	146	115.6%	
不動産賃貸	572	606	33	105.8%	
不動産販売	128	226	98	176.4%	保有物件の売却の増、分譲マンション販売の増
ホテル事業	242	257	15	106.3%	
流通・外食	501	535	34	106.9%	
建設	617	682	64	110.5%	
ビジネスサービス	543	597	53	109.9%	
営業利益	496	627	130	126.3%	
運輸サービス	189	284	94	150.0%	
単体・鉄道事業	200	289	88	144.2%	
不動産・ホテル	226	259	32	114.3%	
不動産賃貸	143	152	8	106.1%	
不動産販売	25	45	20	179.5%	
ホテル事業	58	61	3	106.0%	
流通・外食	30	33	3	111.0%	
建設	20	23	2	112.6%	
ビジネスサービス	28	32	3	112.3%	
EBITDA	770	912	141	118.4%	
運輸サービス	287	393	105	136.8%	
単体・鉄道事業	295	395	100	133.9%	
不動産・ホテル	361	397	35	109.9%	
不動産賃貸	252	261	9	103.6%	
不動産販売	25	45	20	179.1%	
ホテル事業	83	89	6	107.6%	
流通・外食	41	44	3	108.3%	
建設	29	33	3	110.6%	
ビジネスサービス	53	53	0	100.5%	



## 2026年3月期 第3四半期単体決算実績

(単位:億円)

	2025年3月期 3Q累計実績	2026年3月期 3Q累計実績	対前年		主な増減要因
営業収益	1,687	1,974	287	117.1%	
鉄道旅客運輸収入	1,129	1,294	165	114.6%	運賃・料金改定による増
新幹線	454	523	68	115.1%	
在来線	674	771	96	114.3%	
その他収入	558	680	122	122.0%	保有物件の売却の増、分譲マンション販売の増
営業費用	1,323	1,496	173	113.1%	
人件費	354	384	30	108.5%	ベースアップなどによる増
物件費	696	822	126	118.1%	
動力費	80	86	6	107.8%	
修繕費	183	210	26	114.5%	安全・老朽化対策に伴う増
その他	432	525	93	121.6%	不動産販売原価の増
租税公課	100	105	4	104.2%	
減価償却費	171	185	13	107.7%	
営業利益	363	478	114	131.4%	
営業外損益	7	4	△ 2	59.3%	
経常利益	370	482	111	130.0%	
特別損益	3	△ 102	△ 106	-	「令和7年8月6日からの大雨」による減 博多駅空中都市プロジェクト中止による減
四半期純利益	287	287	0	100.3%	

(単位:億円)

(再掲)単体事業別

		2025年3月期 3Q累計実績	2026年3月期 3Q累計実績	対前年	
鉄道事業	営業収益	1,246	1,415	168	113.5%
	営業利益	200	289	88	144.2%
関連事業	営業収益	440	559	118	127.0%
	営業利益	162	188	25	115.6%



## II 2026年3月期通期業績予想および配当予想



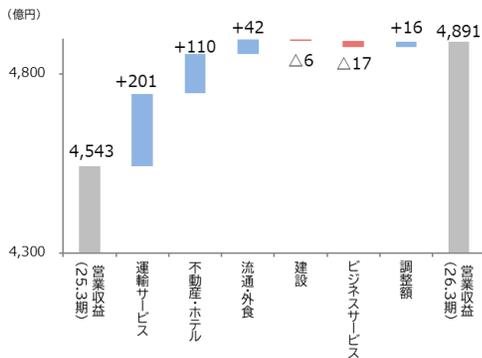
## 2026年3月期 連結通期業績予想ハイライト(対前年)

	2025年3月期 実績	2026年3月期 通期予想	対前年		(単位:億円) 中期経営計画 2025-2027 数値目標
			対前年	対前年	
営業収益	4,543	4,891	347	107.6%	5,300
営業利益	589	731	141	123.9%	710
経常利益	595	723	127	121.4%	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	436	460	23	105.4%	-
EBITDA	959	1,120	160	116.7%	1,150

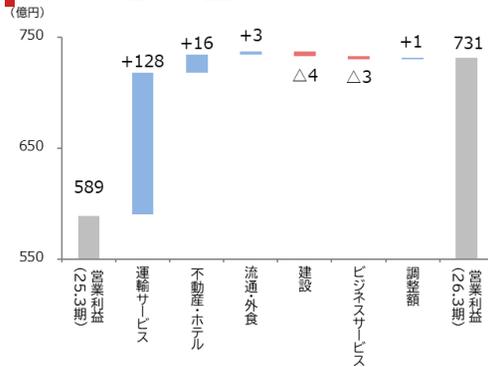
### ポイント

- 2025年11月5日公表の予想から変更なし
- 上期までの状況や下期の需要等を業績予想へ反映、営業収益、営業利益、経常利益は上方修正、親会社株主に帰属する当期純利益は下方修正

### セグメント別営業収益



### セグメント別営業利益



- 2026年3月期の通期業績予想および配当予想について、11月5日公表の予想から変更しておりません。
- 引き続き、各セグメントにおける収入費用の動向を注視しつつ、今期業績予想達成に向けた各種施策を推進してまいります。
- 次に、「セグメントの状況」について説明します。18ページをご覧ください。



## 2026年3月期 セグメント別通期業績予想(対前年)

(単位:億円)

	2025年3月期 実績	2026年3月期 通期予想	対前年	主な増減理由	中期経営計画 2025-2027 数値目標
営業収益	4,543	4,891	347 107.6%		5,300
運輸サービス	1,693	1,895	201 111.9%		1,890
単体・鉄道事業	1,670	1,877	206 112.4%	運賃・料金改定に伴う鉄道旅客運輸収入の増	-
不動産・ホテル	1,434	1,545	110 107.7%		1,670
不動産賃貸	782	813	30 103.9%	前期開業物件の平年度化による増	-
不動産販売	328	399	70 121.3%	保有物件の売却の増、分譲マンション販売の増	-
ホテル事業	322	333	10 103.3%		-
流通・外食	670	713	42 106.3%		800
建設	1,006	1,000	△ 6 99.4%		1,100
ビジネスサービス	825	808	△ 17 97.8%		880
営業利益	589	731	141 123.9%		710
運輸サービス	121	250	128 205.1%		205
単体・鉄道事業	134	254	119 189.5%		-
不動産・ホテル	314	331	16 105.1%		340
不動産賃貸	182	184	1 101.0%		-
不動産販売	64	76	11 117.6%		-
ホテル事業	68	71	2 104.3%		-
流通・外食	34	38	3 109.1%		40
建設	73	69	△ 4 93.7%		80
ビジネスサービス	52	49	△ 3 93.1%		55
EBITDA	959	1,120	160 116.7%		1,150
運輸サービス	253	396	142 155.9%		-
単体・鉄道事業	262	397	135 151.7%		-
不動産・ホテル	496	514	17 103.6%		-
不動産賃貸	328	331	2 100.7%		-
不動産販売	64	76	11 117.4%		-
ホテル事業	102	107	4 104.2%		-
流通・外食	49	53	3 106.5%		-
建設	86	83	△ 3 96.0%		-
ビジネスサービス	85	79	△ 6 92.7%		-

## 2026年3月期 単体通期業績予想(対前年)

(単位:億円)

	2025年3月期 実績	2026年3月期 通期予想	対前年		主な増減要因
営業収益	2,408	2,715	306	112.7%	
鉄道旅客運輸収入	1,512	1,717	204	113.5%	運賃・料金改定に伴う鉄道旅客運輸収入の増
新幹線	605	688	82	113.7%	
在来線	907	1,029	121	113.4%	
その他収入	896	998	101	111.4%	保有物件の売却の増、分譲マンション販売の増
営業費用	2,047	2,214	166	108.1%	
人件費	499	508	8	101.6%	ベースアップに伴う増、一時金の減
物件費	1,181	1,314	132	111.2%	
動力費	107	115	7	106.5%	電力単価の増
修繕費	342	385	42	112.4%	安全・老朽化対策に伴う増
その他	731	814	82	111.3%	不動産販売原価の増
租税公課	134	141	6	104.8%	
減価償却費	231	251	19	108.2%	
営業利益	360	501	140	138.9%	
営業外損益	46	△ 8	△ 54	-	
経常利益	406	493	86	121.2%	
特別損益	△ 31	△ 104	△ 72	-	「令和7年8月6日からの大雨」による減、博多駅空中都市プロジェクト中止による減
当期純利益	310	292	△ 18	94.0%	

### (再掲)単体事業別

(単位:億円)

	2025年3月期 実績	2026年3月期 通期予想	対前年	
鉄道事業				
営業収益	1,670	1,877	206	112.4%
営業利益	134	254	119	189.5%
関連事業				
営業収益	737	838	100	113.6%
営業利益	226	247	20	109.0%

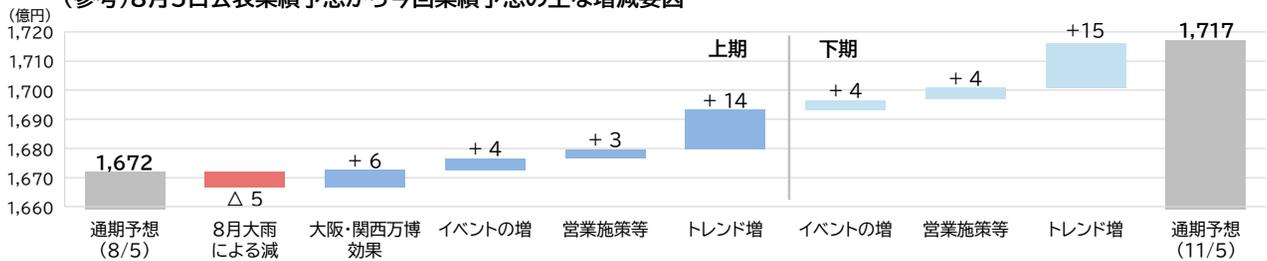


# 鉄道旅客運輸収入の主な増減要因

(単位:億円)

	2025年3月期 通期実績	2026年3月期 通期予想	対前年		主な増減要因
全社計	1,512	1,717	204	113.5%	
定期	311	371	59	118.9%	
定期外	1,200	1,346	145	112.1%	
新幹線	605	688	82	113.7%	
定期	32	38	5	118.7%	運賃改定効果、トレンド増 +5前後
定期外	573	650	76	113.4%	運賃改定効果、トレンド増 +60前後 前年災害の反動増 +6 イベントの増 +5 大阪・関西万博効果 +5 営業施策による増 +1 8月大雨による減 Δ1
在来線	907	1,029	121	113.4%	
定期	279	333	53	119.0%	運賃改定効果、トレンド増 +50前後
定期外	627	696	68	111.0%	運賃改定効果、トレンド増 +60前後 イベントの増 +2 営業施策による増 +2 前年災害の反動増 +2 大阪・関西万博効果 +1 8月大雨による減 Δ4

(参考)8月5日公表業績予想から今回業績予想の主な増減要因



# 2026年3月期通期業績予想ハイライト(対前回予想)

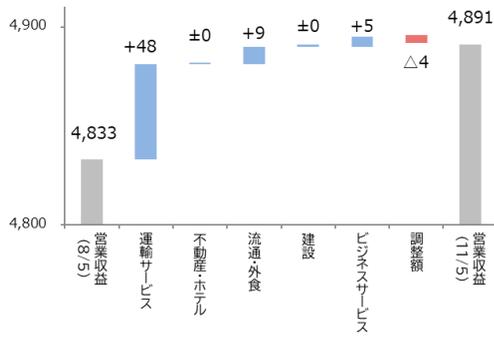
	2026年3月期 通期予想 (8/5)	2026年3月期 通期予想 (11/5)	対前回	(単位:億円)	中期経営計画 2025-2027 数値目標
営業収益	4,833	4,891	58 101.2%		5,300
営業利益	676	731	55 108.1%		710
経常利益	659	723	64 109.7%		-
親会社株主に帰属する 当期純利益	511	460	△ 51 90.0%		-
EBITDA	1,064	1,120	56 105.3%		1,150

## ポイント

- 2025年11月5日公表の予想から変更なし
- 上期までの状況や下期の需要等を業績予想へ反映、営業収益、営業利益、経常利益は上方修正、親会社株主に帰属する当期純利益は下方修正

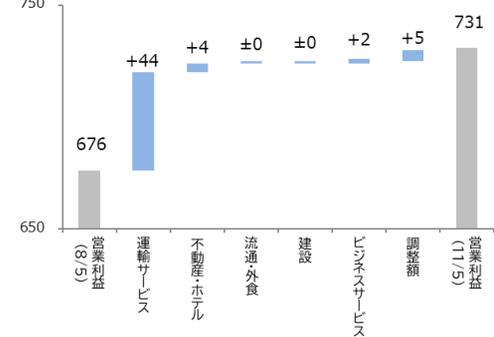
## セグメント別営業収益

(億円)



## セグメント別営業利益

(億円)





## 2026年3月期 セグメント別通期業績予想(対前回予想)

(単位:億円)

	2026年3月期 通期予想 (8/5)	2026年3月期 通期予想 (11/5)	対前回	主な増減理由	中期経営計画 2025-2027 数値目標
営業収益	4,833	4,891	58 101.2%		5,300
運輸サービス	1,847	1,895	48 102.6%		1,890
単体・鉄道事業	1,830	1,877	47 102.6%	トレンド増、イベントの増、営業施策等による鉄道旅客運輸収入の増	-
不動産・ホテル	1,545	1,545	- 100.0%		1,670
不動産賃貸	806	813	7 100.9%		-
不動産販売	406	399	△7 98.3%		-
ホテル事業	333	333	- 100.0%		-
流通・外食	704	713	9 101.3%		800
建設	1,000	1,000	- 100.0%		1,100
ビジネスサービス	803	808	5 100.6%		880
営業利益	676	731	55 108.1%		710
運輸サービス	206	250	44 121.4%		205
単体・鉄道事業	211	254	43 120.4%		-
不動産・ホテル	327	331	4 101.2%		340
不動産賃貸	183	184	1 100.5%		-
不動産販売	73	76	3 104.1%		-
ホテル事業	71	71	- 100.0%		-
流通・外食	38	38	- 100.0%		40
建設	69	69	- 100.0%		80
ビジネスサービス	47	49	2 104.3%		55
EBITDA	1,064	1,120	56 105.3%		1,150
運輸サービス	354	396	42 111.9%		-
単体・鉄道事業	355	397	41 111.8%		-
不動産・ホテル	510	514	4 100.8%		-
不動産賃貸	330	331	1 100.3%		-
不動産販売	73	76	3 104.1%		-
ホテル事業	107	107	- 100.0%		-
流通・外食	53	53	- 100.0%		-
建設	83	83	- 100.0%		-
ビジネスサービス	77	79	2 102.6%		-



## 2026年3月期 単体通期業績予想(対前回予想)

(単位:億円)

	2026年3月期 通期予想 (8/5)	2026年3月期 通期予想 (11/5)	対前回	主な増減要因
営業収益	2,663	2,715	52 102.0%	
鉄道旅客運輸収入	1,672	1,717	45 102.7%	トレンド増、イベントの増、営業施策による増ほか
新幹線	664	688	24 103.6%	
在来線	1,008	1,029	21 102.1%	
その他収入	991	998	7 100.7%	
営業費用	2,214	2,214	- 100.0%	
人件費	512	508	△ 4 99.2%	
物件費	1,311	1,314	3 100.2%	
動力費	119	115	△ 4 96.6%	
修繕費	371	385	14 103.8%	安全・老朽化対策に伴う増
その他	821	814	△ 7 99.1%	
租税公課	139	141	2 101.4%	
減価償却費	252	251	△ 1 99.6%	
営業利益	449	501	52 111.6%	
営業外損益	△ 10	△ 8	2 -	
経常利益	439	493	54 112.3%	
特別損益	-	△ 104	△ 104 -	「令和7年8月6日からの大雨」による減、博多駅空中都市プロジェクト中止による減
当期純利益	352	292	△ 60 83.0%	

(再掲)単体事業別

(単位:億円)

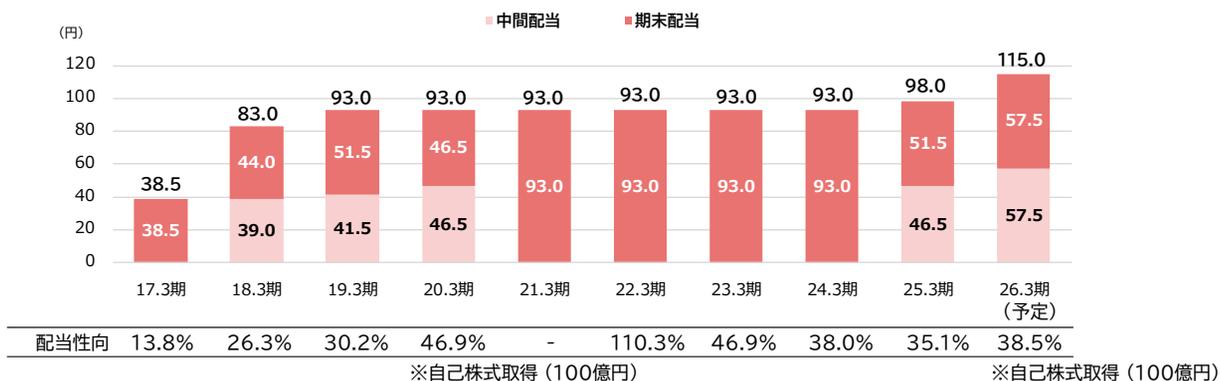
	2026年3月期 通期予想 (8/5)	2026年3月期 通期予想 (11/5)	対前回
鉄道事業			
営業収益	1,830	1,877	47 102.6%
営業利益	211	254	43 120.4%
関連事業			
営業収益	833	838	5 100.6%
営業利益	238	247	9 103.8%



## 株主還元について

- 株主還元は長期安定的に行っていくことが重要と考え、2028年3月期までの間は、連結配当性向35%以上の配当を実施するとともに、機動的に自己株式取得を行う
- 上記の方針に基づき業績予想の変更も踏まえて検討した結果、2026年3月期の配当予想は、1株当たり年間配当金115円、中間配当は1株当たり57.5円

(参考)1株当たり年間配当金の推移





### Ⅲ セグメントの状況



## 運輸サービスセグメント

- 26.3期3Qの鉄道旅客運輸収入は、全体では想定を上回って推移
- 鉄道事業の費用は概ね想定通りに推移

【実績】

	2025年3月期 3Q累計実績	2026年3月期 3Q累計実績	対前年	
営業収益	1,262	1,426	163	113.0%
うち単体・鉄道事業	1,246	1,415	168	113.5%
鉄道旅客運輸収入	1,129	1,294	165	114.6%
営業利益	189	284	94	150.0%
うち単体・鉄道事業	200	289	88	144.2%
EBITDA	287	393	105	136.8%
うち単体・鉄道事業	295	395	100	133.9%

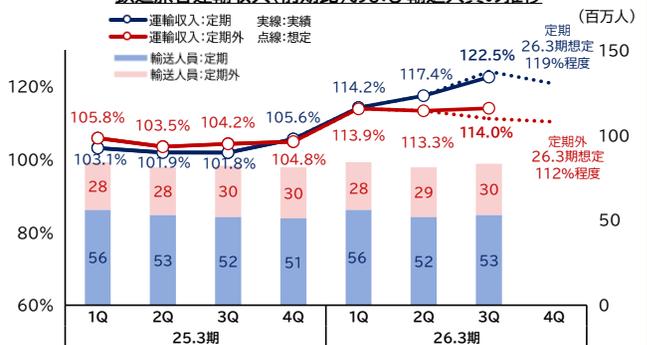
【業績予想】

	2025年3月期 実績	2026年3月期 通期予想	対前年	
	1,693	1,895	201	111.9%
	1,670	1,877	206	112.4%
	1,512	1,717	204	113.5%
	121	250	128	205.1%
	134	254	119	189.5%
	253	396	142	155.9%
	262	397	135	151.7%

### 主な事業の状況と業績予想の前提

- 3Qの鉄道旅客運輸収入は、定期収入は概ね想定通り、定期外収入は想定を上回って推移
- 鉄道事業の費用は、ベースアップによる人件費の増などにより前年を上回ったものの、概ね想定通りに推移
- 運賃・料金改定における改定率および増収率
  - 定期：改定率 25.8% 増収率 18.6%
  - 定期外：改定率 14.6% 増収率 11.5%
  - 料金：改定率 8.0% 増収率 6.5%

### 鉄道旅客運輸収入(前期比)および輸送人員の推移



- まず、運輸サービスセグメントについてご説明します。
- 鉄道旅客運輸収入について、この3カ月は全体では想定を上回る水準で推移しました。内訳を見ますと、定期収入は概ね想定通り、定期外は想定を上回って推移しました。
- また、鉄道事業の費用については、概ね想定通りに推移しております。
- 20ページをご覧ください。



# 鉄道事業(輸送データ)

(単位:億円)

## 鉄道旅客運輸収入

	2025年3月期 3Q累計実績	2026年3月期 3Q累計実績	対前年		主な増減要因
全社計	1,129	1,294	165	114.6%	
定期	237	279	42	118.0%	
定期外	892	1,014	122	113.7%	
荷物	0	0	0	163.2%	
新幹線	454	523	68	115.1%	
定期	24	28	4	118.7%	運賃改定効果、トレンド増 +5前後
定期外	430	494	64	114.9%	運賃改定効果、トレンド増 +40前後 前年災害の反動増 +6 大阪・関西万博効果 +5 イベントの増 +4 8月大雨による減 Δ1
在来線	674	771	96	114.3%	
定期	212	251	38	117.9%	運賃改定効果、トレンド増 +35前後
定期外	461	519	58	112.6%	運賃改定効果、トレンド増 +45前後 営業施策による増 +2 前年災害の反動増 +2 大阪・関西万博効果 +1 イベントの増 +3 8月大雨による減 Δ4

(単位:百万人キロ)

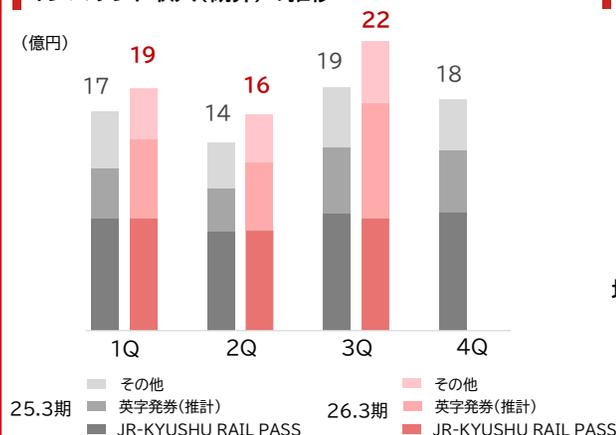
## 輸送人キロ

	2025年3月期 3Q累計実績	2026年3月期 3Q累計実績	対前年		主な増減要因
全社計	6,471	6,466	Δ 5	99.9%	
定期	3,045	3,029	Δ 16	99.5%	
定期外	3,426	3,437	10	100.3%	
新幹線	1,490	1,523	33	102.3%	
定期	175	184	9	105.2%	
定期外	1,314	1,339	24	101.9%	九州新幹線の人員の増
在来線	4,981	4,942	Δ 38	99.2%	
定期	2,869	2,844	Δ 25	99.1%	通学定期の人員の減
定期外	2,111	2,097	Δ 13	99.4%	

## 鉄道事業におけるインバウンドの状況

- 26.3期3Qのインバウンド収入は、JR九州レールパスから通常のきっぷへの転移が引き続き見られ、全体では前年を上回る水準で想定通りに推移

### インバウンド収入(概算)の推移



### 鉄道旅客運輸収入に占める割合

	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
2025.3期	4.8%	4.0%	4.8%	4.8%	4.6%
2026.3期	4.7%	4.0%	5.0%		

### JR-KYUSHU RAIL PASSの需要動向

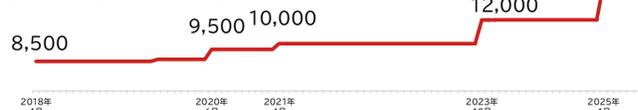
	25.3期 3Q累計	26.3期 3Q累計	
	実績	実績	25.3期比
販売数	20.5 万枚	16.9 万枚	82.3 %
売上	28.4 億円	28.1 億円	98.8 %
(参考) 単価※	約13,800 円	約16,500 円	120.0 %

※ JR-KYUSHU RAIL PASS 1枚当たりの平均単価

### 地域別販売先



### 価格の変遷(北部九州3日間)



- 次に、鉄道事業のインバウンドの状況について説明します。
- インバウンド収入について、全体では前年を上回る水準でほぼ想定通りに推移しました。
- 内訳を見ますと、昨年4月に価格改定を実施したJR九州レールパスは前年と同水準、英字発券のきっぷは前年を上回る水準で推移しました。
- なお、中国政府による渡航自粛勧告の影響により、12月以降中国のお客さまのJR九州レールパスのご利用は減少しているものの、インバウンド収入全体に対する影響は限定的と見ています。
- 次のページをご覧ください。

## 不動産・ホテルセグメント | 不動産賃貸事業

- 26.3期3Qの駅ビルテナント売上は、2Qに引き続き「JR博多シティ」の免税売上が回復傾向にあり、全体として計画を上回って推移
- 営業収益は、駅ビルにおける賃料収入が増加するとともに、賃貸マンションなどの新規アセットの平年度化などで、前年を上回って堅調に推移

【実績】

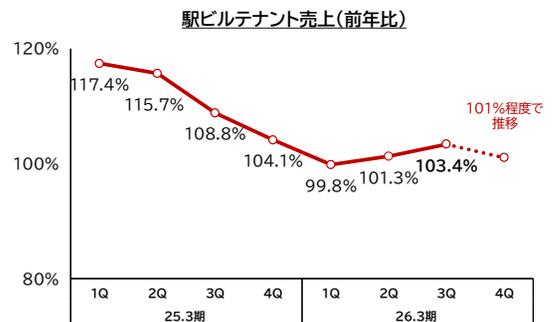
	2025年3月期 3Q累計実績	2026年3月期 3Q累計実績	対前年	
営業収益	572	606	33	105.8%
営業利益	143	152	8	106.1%
EBITDA	252	261	9	103.6%

【業績予想】

	2025年3月期 実績	2026年3月期 通期予想	対前年	
営業収益	782	813	30	103.9%
営業利益	182	184	1	101.0%
EBITDA	328	331	2	100.7%

### 主な事業の状況

- 3Qの駅ビルテナント売上高は、免税売上が回復傾向にあり、全体では計画を上回って推移
- 2025年11月「アミュプラザ博多」にオープンした「Nintendo FUKUOKA」は好調。また「アミュプラザくまもと」や「アミュプラザ鹿児島」などが堅調に推移
- オフィスビルおよび賃貸マンションの入居率は概ね堅調



- 次に、不動産・ホテルセグメントについて説明します。
- まず、不動産賃貸事業について、駅ビルのテナント売上高は前年をやや上回る水準で推移しました。営業収益は駅ビルにおける賃料収入が増加したことや、賃貸マンションを中心とした新規アセットの稼働などにより、前年を上回る水準で想定に対して堅調に推移しました。
- 昨年11月にオープンしたNintendo FUKUOKAは多くのお客様にご利用いただいております、計画を大きく上回る好調なスタートを切りました。
- 次のページをご覧ください。

## 不動産・ホテルセグメント | 不動産販売事業

- 26.3期3Qの分譲マンション販売は、前年を超える水準で推移
- 保有物件の売却については、26.3期2Qまでにオフィスビル1棟および賃貸マンション3棟を第三者と私募リートへ売却

【実績】

(単位:億円)

	2025年3月期 3Q累計実績	2026年3月期 3Q累計実績	対前年	
営業収益	128	226	98	176.4%
営業利益	25	45	20	179.5%
EBITDA	25	45	20	179.1%

【業績予想】

(単位:億円)

	2025年3月期 実績	2026年3月期 通期予想	対前年	
営業収益	328	399	70	121.3%
営業利益	64	76	11	117.6%
EBITDA	64	76	11	117.4%

### 主な事業の状況

- 分譲マンションについて、3Qでは「MJR千早ミッドスクエア」「MJR大分サーパスコート」などを引き渡し
- 保有物件の売却について、期初想定通り80億円程度の売却を実施

#### MJR千早ミッドスクエア

所在地 : 福岡市東区  
構造 : 地上18階建  
引渡開始: 2025年3月  
戸数 : 532戸  
販売状況: 完売

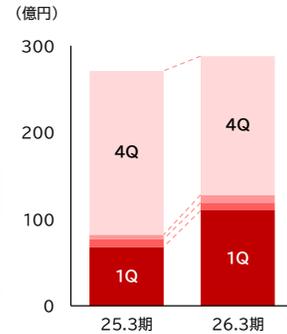


#### MJR大分サーパスコート

所在地 : 大分市  
構造 : 地上14階建  
引渡開始: 2025年3月  
戸数 : 220戸  
販売状況: 販売中



分譲マンション販売実績および見込み  
(営業収益)



- 次に、不動産販売事業について説明します。
- 分譲マンション販売は、「MJR千早ミッドスクエア」などの引き渡しを実施し、想定に対して順調に推移しました。
- また、保有物件の売却について、第2四半期までにオフィスビル1棟および賃貸マンション3棟を第三者と私募REITへ売却しております。
- 次のページをご覧ください。

## 不動産・ホテルセグメント | ホテル事業

- 26.3期3Qは、引き続きインバウンド比率が高いホテルが牽引し、ADR・稼働率ともに想定を上回り推移

【実績】

	(単位:億円)		
	2025年3月期 3Q累計実績	2026年3月期 3Q累計実績	対前年
営業収益	242	257	15 106.3%
営業利益	58	61	3 106.0%
EBITDA	83	89	6 107.6%

【業績予想】

	(単位:億円)		
	2025年3月期 実績	2026年3月期 通期予想	対前年
営業収益	322	333	10 103.3%
営業利益	68	71	2 104.3%
EBITDA	102	107	4 104.2%

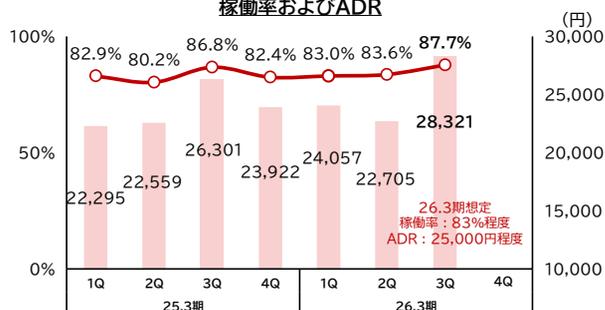
### 主な事業の状況

- 3QのADRは28,000円程度、稼働率は87.7%と想定を上回って推移
- インバウンド比率は55%程度で推移。中国政府による渡航自粛勧告の影響は限定的

インバウンド比率推移(総販売室数ベース)



稼働率およびADR



- 次に、ホテル事業について説明します。
- ADRについて、インバウンド比率の高いホテルが再び伸長を牽引し、前年の第3四半期を上回り、想定を超えて推移しました。
- 稼働率について、ほぼ想定通りに推移しております。
- 次のページをご覧ください。



## 流通・外食セグメント

- 26.3期3Qは、小売店・飲食店ともに堅調に推移
- 新規出店は計画に対して順調に進捗

【実績】

(単位:億円)

	2025年3月期 3Q累計実績	2026年3月期 3Q累計実績	対前年
営業収益	501	535	34 106.9%
営業利益	30	33	3 111.0%
EBITDA	41	44	3 108.3%

【業績予想】

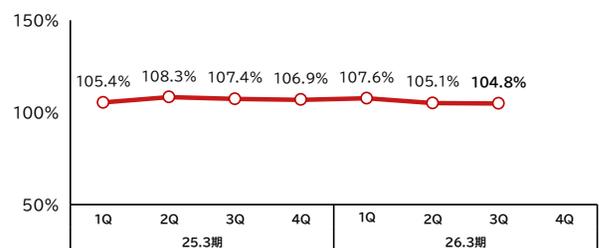
(単位:億円)

	2025年3月期 実績	2026年3月期 通期予想	対前年
営業収益	670	713	42 106.3%
営業利益	34	38	3 109.1%
EBITDA	49	53	3 106.5%

### 主な事業の状況

- 3Qの店舗売上高は、小売店では土産店などが、飲食店ではFC店舗を中心に堅調に進捗し、既存店売上高はいずれも前年を超えて推移
- 新規出店は小売店・飲食店において順調に進捗

セグメント店舗売上高(対前年)



- 次に、流通・外食セグメントについて説明します。
- 店舗売上高は、お客さま単価の増により、小売店・飲食店ともに既存店を中心に堅調に推移しました。
- 新規出店について、小売店・飲食店ともに概ね順調に進捗しております。
- 次に、「中期経営計画の取り組み状況」について説明します。27ページをご覧ください。

# 建設セグメント・ビジネスサービスセグメント

## 建設セグメント

【実績】

	(単位:億円)		
	2025年3月期 3Q累計実績	2026年3月期 3Q累計実績	対前年
営業収益	617	682	64 110.5%
営業利益	20	23	2 112.6%
EBITDA	29	33	3 110.6%

【業績予想】

	(単位:億円)		
	2025年3月期 実績	2026年3月期 通期予想	対前年
	1,006	1,000	△ 6 99.4%
	73	69	△ 4 93.7%
	86	83	△ 3 96.0%

## ビジネスサービスセグメント

【実績】

	(単位:億円)		
	2025年3月期 3Q累計実績	2026年3月期 3Q累計実績	対前年
営業収益	543	597	53 109.9%
営業利益	28	32	3 112.3%
EBITDA	53	53	0 100.5%

【業績予想】

	(単位:億円)		
	2025年3月期 実績	2026年3月期 通期予想	対前年
	825	808	△ 17 97.8%
	52	49	△ 3 93.1%
	85	79	△ 6 92.7%



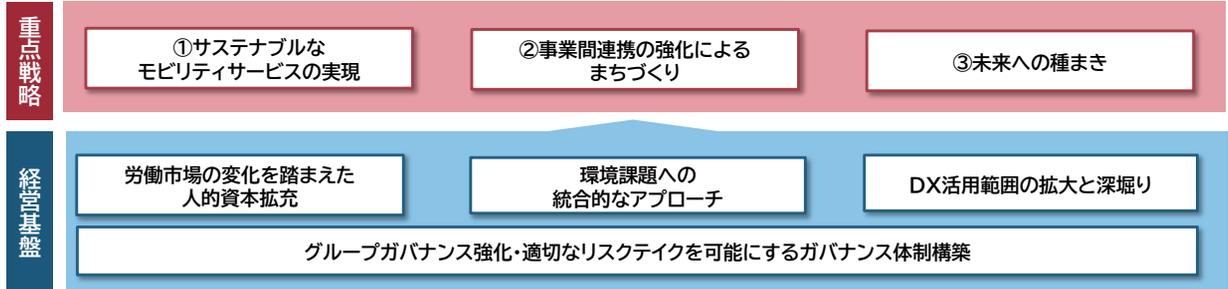
## IV 中期経営計画の取り組み状況



# JR九州グループ中期経営計画 2025-2027

- 2026年3月期の業績を踏まえ、2028年3月期の数値目標等の精査を進める

## 重点戦略とそれを支える経営基盤



### 数値目標

営業収益 **5,300** 億円 営業利益 **710** 億円

EBITDA **1,150** 億円 ROE **現行水準の維持**

### セグメント別\*

(単位:億円)

セグメント名	営業収益	営業利益
運輸サービス	1,890	205
不動産・ホテル	1,670	340
流通・外食	800	40
建設	1,100	80
ビジネスサービス	880	55

\*セグメント毎の営業収益・営業利益はセグメント間取引消去前

### キャッシュアロケーション



### 財務健全性(2027年度見通し)

D/EBITDA **5倍** 程度

自己資本比率 **40%** 程度

### 株主還元方針

株主還元は長期安定的に行っていくことが重要と考え、2027年度までの間は、連結配当性向35%以上の配当を実施するとともに、機動的に自己株式取得を行う

- 当社グループが長期的な視点で持続的な成長を遂げていくための期間として「中期経営計画2025-2027」を4月から開始し、3つの重点戦略を推進しております。
- この重点戦略については基本的に継続する予定ですが、本計画の数値目標やキャッシュアロケーション、財務健全性については、現在の経済環境や今期の実績、来期以降の各事業の動向等について検討を深め、精査を進めています。
- 博多駅空中都市プロジェクトは中止したものの、九州大学箱崎キャンパス跡地の開発など、本中計期間より先の開発についても検討を深めてまいります。
- 次に重点戦略の進捗についてご説明します。次のページをご覧ください。

## 重点戦略① サステナブルなモビリティサービスの実現 | 未来鉄道・お客さまへの提供価値向上

- GOA ※ 2.0自動運転を本格導入。その技術や知見を活用し、将来のGOA2.5自動運転区間の拡大を目指す  
※ GOA = Grades of Automation
- リアルタイムな運行情報をスマートフォン等で確認できる新サービスをリリース。運賃改定による増収を原資としてお客さま満足度を向上させる取り組みを推進

### 自動運転の推進



- GOA2.0自動運転区間
  - GOA2.5自動運転区間
- \*2026年2月10日現在



- GOA2.0自動運転の技術を用いて、GOA2.5自動運転にフィードバックすることで、地上設備投資の最小化等を実現

<b>GOA 2.0</b>	列車前頭に運転士が乗務し、状況により手動介入等を行う運行形態
<b>GOA 2.5</b>	列車前頭に自動運転乗務員(運転士以外の係員・社内資格)が乗務し、緊急停止操作等を行う運行形態

2025年 12月

#### GOA2.0自動運転本格導入

鹿児島本線 門司港～荒尾、日豊本線 小倉～宇佐 対象線区を順次拡大

2027年未まで (目標)

#### GOA2.5自動運転区間拡大

鹿児島本線 門司港～小倉、日豊本線 小倉～宇佐

### 次世代案内システムによる運行情報提供



- 1月26日から、WEBブラウザアプリ上で、「JR九州トレインナビ」による運行情報の提供を一部区間で開始

#### 本サービスの機能

- ① 列車の時刻表とのりば
- ② 停車駅の確認
- ③ リアルタイムな列車位置
- ④ 列車の遅れ・変更情報

- まず、サステナブルなモビリティサービスの実現に関する取り組みについて説明します。
- 1つ目に、未来鉄道プロジェクトの取り組みとして自動運転の推進を進めています。
- 実証運転段階であったGOA2.0自動運転を本格導入し、対象線区を順次拡大していきます。また、より高度な自動運転である、GOA2.5自動運転を2027年末までに拡大することを目指します。
- 2つ目に、運賃・料金改定を原資とした、お客さまへの提供価値向上の取り組みとして、次世代案内システムによる運行情報の提供を開始しました。
- 「JR九州トレインナビ」を通じて、列車の遅れや各駅でののりばの変更情報など、複数の情報をリアルタイムでWEBブラウザ上で提供しています。
- 次のページをご覧ください。

## 重点戦略② 事業間連携の強化によるまちづくり | 新たな会員ランクサービスの開始

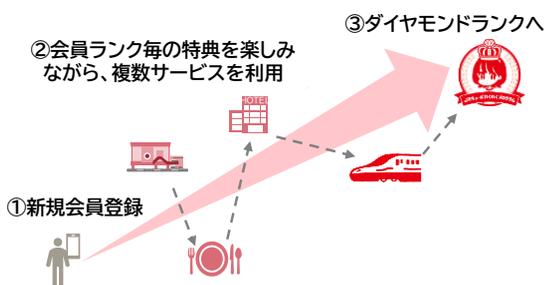
- 当社グループの複数サービスを高頻度で利用する、高いロイヤリティのお客さまを増やすことを目指し、2026年4月1日から新しい会員ランクサービス「JRキューポわくわくプログラム」を開始
- JRキューポを起点とした事業間連携強化により、コングロマリット・プレミアム創出に取り組む

### ロイヤルカスタマー化の推進



- サービス対象をすべてのJR九州Web会員へ拡大し、新たな会員ランクサービスを開始
- 会員ランクに応じた魅力的な特典や、それぞれのお客さまに適したサービスの提案等を実施。事業間での相互送客による、ロイヤルカスタマー化を推進
- ひとりあたりの利用金額・利用サービスの増により、コングロマリット・プレミアムを創出

### ロイヤルカスタマー化 ※イメージ



### サービス対象

JR九州Web会員  
約450万人  
※2025年12月末現在

旧会員ランクサービス対象  
「JRキューポアプリ」利用者  
約85万人  
※2025年12月末現在

### 主な特典

<ダイヤモンドランクの例>

- 鉄道乗り放題きっぷ進呈
- ホテルペア宿泊招待券進呈
- ポイントを駅ビルプレミアムクーポンに交換可能
- ポイント付与率アップ 等

### 会員ランク



### ランク評価軸

- 年間獲得ポイント数
- 年間利用サービス数
- おまとめ登録(JQ CARD、SUGOCAの登録状況)
- 鉄道の利用金額(上位2ランク到達条件に設定)

- 次に、新たな会員ランクサービスの開始について説明します。
- 当社の複数サービスを高頻度で利用する、高いロイヤリティのお客さまを増やすことを目指し、会員ランクサービスを見直します。
- JRキューポを起点とし、魅力的な特典の設定や、お客さまごとのサービスの提案等により、お客さまひとりあたりの利用金額や利用サービスを増やす取り組みです。
- この仕組みを、当社グループの事業間でそれぞれ保有する顧客基盤を相互につなげるプラットフォームとして活用し、コングロマリット・プレミアムの創出に注力してまいります。
- 次のページをご覧ください。

## 重点戦略② 事業間連携の強化によるまちづくり | 分譲マンション事業の成長

- MJRブランドは九州トップクラスの地位を確立。今後も安定的な戸数供給を見込む
- 販売中物件の進捗も好調。駅近や沿線、九州内主要都市をはじめとする開発パイプラインを保有

### 今後の主な開発パイプライン（竣工時期ベース）



- 次に、分譲マンション事業について説明します。
- 1989年に事業を開始して以来、JR九州のマンションブランドである「MJR」は九州エリアにおいてトップクラスのブランド地位を確立し、これまでに1万戸を超える戸数を供給してきました。
- インフレの環境下においても現在販売中の物件は好調な販売状況です。さらに開発パイプラインも数年先まで複数保有しており、今後も安定的な戸数供給を見込んでおります。
- 駅周辺や沿線をはじめとした九州内の定住人口の増加に寄与するとともに、地域の魅力向上に取り組み、「住みたい・働きたい・訪れたい」まちづくりに貢献しています。
- 次のページをご覧ください。

## 重点戦略② 事業間連携の強化によるまちづくり | 物流不動産の取り組み

- 福岡エリア・鳥栖エリアにおいて、新たな物流施設の開発に着手

### LOGI STATION 福岡箱崎

- 博多港に面した箱崎ふ頭内に位置し、国際貨物の保管に優れたエリア
- 「貝塚IC」から約1km。九州全域への広域輸送が可能な物流拠点としての需要を見込む
- 吉田海運ロジソリューションズとの共同事業

所在地：福岡県福岡市  
敷地面積：約 9,502㎡  
延床面積：約17,999㎡  
構造規模：鉄骨造 地上3階建(冷凍冷蔵倉庫)  
竣工：2027年3月(予定)  
※開業は2027年11月予定



自動車道  
-九州自動車道 —  
-長崎自動車道、大分自動車道、東九州自動車道 —  
-その他 —



### LOGI STATION 鳥栖 I

- 「鳥栖IC」から約2km、「小郡鳥栖南スマートIC」から約1.5kmに位置。広域物流拠点としての需要を見込む

所在地：佐賀県鳥栖市  
敷地面積：約15,720㎡  
延床面積：約16,233㎡  
構造規模：鉄骨造 地上2階建  
竣工：2027年1月(予定)



九州内物流不動産 ( )内、延床面積	① 福岡北物流センター	(約11,684㎡)	⑧ サザン鳥栖クロスパーク開発事業(未定)
	② 箱崎ふ頭物流施設	(約25,657㎡)	⑨ LOGI STATION 熊本菊池開発
-稼動中 ● 9件	③ 須恵第一物流センター	(約12,398㎡)	⑩ LOGI STATION 小倉東開発
	④ 新門司物流施設	(約16,784㎡)	⑪ LOGI STATION 鳥栖Ⅱ開発
-開発中等 ● 6件	⑤ LOGI STATION 福岡小郡	(約85,424㎡)	⑫ LOGI STATION 鳥栖Ⅰ開発
	⑥ LOGI STATION 福岡刈田	(約15,946㎡)	⑬ LOGI STATION 福岡箱崎
*2026年2月現在	⑦ 神埼物流施設	(約 9,242㎡)	⑭ 須恵第二物流センター
			⑮ 小郡物流センター
			(約 5,305㎡)
			(約13,144㎡)

- 次に、物流不動産の取り組みについて説明します。
- 今回、福岡市と鳥栖市における新たな開発プロジェクトを開始いたしました。
- 九州内物流不動産のニーズは底堅く、半導体産業の進出による九州経済の成長を取り込むためにも重要なアセットだと考え、今中計期間では投資を進めております。
- 物流不動産の開発は、当社グループのレジリエンス強化、不動産ポートフォリオの分散などに寄与すると考えており、今後もマーケットの状況を見ながら開発を検討してまいります。
- 以上でご説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。



# APPENDIX



# 月次開示資料および運賃改定について

## 月次開示資料

2025年度/2024年度	運輸取扱収入			計	合計	④ 九州新幹線 ご利用状況 (博多～熊本間)
	① 定期収入	定期外収入				
		② 近距離	③ 中長距離			

P:速報(%)

### 運輸取扱収入

当社の駅やJR九州インターネット列車予約、旅行代理店などで発売されたきっぷの収入。PLの「鉄道旅客運輸収入」はこの運輸取扱収入からJR他社や旅行代理店との精算を行った後の数値

#### ①定期収入

通勤・通学定期の収入。改定率は25.8%、増収率は18.6%(通勤・通学計)先買いの影響により、月次開示資料上は当面の間、改定率/増収率を下回ると想定

#### ②定期外収入 近距離

定期外収入のうち、50km以内のきっぷ(ICカード等含む)の収入。改定率は14.6%、増収率は11.5%(定期外)

#### ③定期外収入 中長距離

定期外収入のうち、近距離を除くきっぷの収入。当社で発売されたJR他社のきっぷの収入も含む。改定率は定期外14.6%、料金8.0%、増収率は定期外11.5%、料金6.5%。他社区間は現時点で運賃・料金改定を実施していないため、月次開示資料上は改定率を下回ると想定

#### ④九州新幹線ご利用状況(博多～熊本間)

当該区間の1日平均のご利用者数。なお、カッコ内は2018年度比

## 運賃・料金改定申請資料(2024年7月)

(単位: %)

	上限運賃・料金	
	改定率	増収率
定期外 ②・③	14.6	11.5
① 定期	通勤	30.3
	通学	16.0
計	25.8	18.6
料金 ③	8.0	6.5
(うち新幹線特急料金)	12.4	9.9
合計	15.0	11.4

※改定率から、値上げによる一定のご利用の減少を考慮したものが増収率

改定率15.0% 増収率11.4%  
増収額 160億円(25-27平均)

#### ①定期収入

定期 改定率25.8% 増収率18.6%

#### ②近距離

定期外 改定率14.6% 増収率11.5%

#### ③中長距離 (定期外と料金から構成)

定期外 改定率14.6% 増収率11.5%  
料金 改定率 8.0% 増収率 6.5%



## 将来の見通しに関する記述について

本資料には、JR九州グループの見通し・目標等の将来に関する記述がなされています。

これらは、本資料の作成時点において入手可能な情報、予測や作成時点における仮定に基づいた当社の判断等によって記述されたものであります。そのため、今後、国内外および九州の経済情勢、不動産市況、各プロジェクトの進捗、法令規制の変化、その他の幅広いリスク・要因の影響を受け、実際の経営成績等が本資料に記載された内容と大きく異なる可能性があることにご留意ください。

弊社IR関連資料は、弊社ホームページでご覧いただけます。  
JR九州ホームページ

<https://www.jrkyushu.co.jp/company/ir/library/earnings/>